

「図書館フォーラム」初開催



新図書館を“学びの場からつながる場へ”
“知る・学ぶ・楽しむ”ことができる図書館をめざして



市では現在、新しい図書館の整備を進めており、図書館本来の機能に加えて、市民交流や情報発信、展示や発表活動の機能を併せ持つ「多機能型図書館」になることを目指しています。

昨年11月22日には図書館フォーラムを初めて開催し、新図書館が、本を通じたさまざまな学び、出会い、つながりが生まれる場になるよう、市民の皆さんと一緒に「知る・学ぶ・楽しむ」図書館の在り方を考えました。

問合先 教育委員会事務局生涯学習課社会教育グループ(☎84-5057)

第1部 基調講演 講師：奈良大学文学部文化財学科教授 嶋田 学さん



「学びの場からつながる場へ」をテーマに講演いただきました。“なぜ図書館が必要なのか”、“地域の学びから人がつながる”、“図書館を生かし育てるのは住民”など、これまでの図書館勤務の経験に基づいた「地域に役立つ図書館像」について話を聞くことができました。

第2部 パネルディスカッション コーディネーター：三重県立図書館長 別所志津子さん
パネラー：嶋田 学さん、鈴木壽一さん(亀山市地域まちづくり協議会連絡会議代表)
坂崎由明さん(三重県立亀山高等学校国語科教諭)、服部 裕 教育長



「図書館が市民の皆さんの身近な場所になればいいな、そんな図書館があればいいな」をテーマに、4人のパネラーとこれからの図書館の在り方を考えました。

新しい図書館は読書をするだけの施設ではなく、駅前の立地を生かした集客力が期待できる施設です。また、平日・休日を問わず利用できます。司書が調べごとの相談に応じてくれることで課題解決につながるなど、地域の拠点としての役割も担えるほか、生涯学習との関わりも広がると思います。
(鈴木壽一さん)



読書量が少ない最近の中学、高校生に、多くの本を読んでさまざまな人々の考え方に触れ、しっかりした自分自身の考えを持てる大人へと成長してほしい、生きる力を養ってほしいと願っているところです。亀山駅を利用される高校生などに身近な図書館、学習の場になることを期待しています。
(坂崎由明さん)



さまざまな情報が溢れ、多様な価値観が成り立つ今の社会を私たちがより良く生きていくには、知ること、学ぶこと、楽しむことは重要な視点です。亀山市が持続し発展していくための大切な公共施設として、新図書館の開館を楽しみにしていただきたいと思います。
(服部 裕教育長)



駅前という利点を存分に利用することができ、とてもうらやましく感じます。市内の高等学校とのコラボ企画など、子どもや青少年の読書活動が増えるきっかけになりそうですね。(別所志津子さん)



これからも市民ワークショップなどを開催！ご参加ください！！

令和4年度の開館に向けて、新図書館が、読書を楽しむことはもちろん、市民の皆さんの暮らしに根差し、学びと交流による有意義な時間を過ごすことができる「居場所」になるよう、今後も検討・整理を進めていきます。